

『さっきゃま魂』

R5. 9. 19 第11号

発行人：校長 中山 末永

雨の中でも「全心全力！！」

「予定通り実施するか。それとも来週に延期するか。」

天気予報や空の様子を見ながらの難しい判断になりましたが、最終的には、代表者全員一致で「やろう！」と決定しました。保護者の皆様・地域の方々には、ご心配・ご迷惑をおかけしましたことを大変申し訳なく思っています。

実施すると決めてからは、「雨と雷対策をどうするか」ということで頭がいっぱいでした。子ども達の演技とスマートフォンを交互に眺めながら、祈るような思いで本部席に座っていました。プログラムの変更をしたり、場所を体育館に変更したりすることで、なんとか閉会式までたどり着くことができました。また、足を滑らせて転倒し体操服を汚してしまう子どももいましたが、怪我をしたり体調を崩したりすることなく最後の運動会を締めくくることができほっとしました。

閉会式の挨拶でも述べたように、今年の運動会は「特別な運動会」でした。そのことを子ども達は、ずっと意識し、感謝の思いを伝えるために全心全力で頑張っていたと思います。その中で、私が嬉しかったことをいくつか紹介します。

一つ目は、「声の大きさ」です。短距離走では一人ずつ選手紹介がありましたが、全員が「はい！」と元気よく返事をすることができました。また、演技前の「お願いします」、演技後の「ありがとうございました」の挨拶にも力がこもっていました。その声を聞いた時に、子ども達のやる気を感じる事ができ、頼もしく感じました。

二つ目は、「子ども達の表情」です。真剣勝負の顔、楽しさを満喫する顔など、それぞれの種目にぴったりのいろいろな表情を見ることができました。それを見ている方々の大きな声援、たくさんの笑い声もあり、どの種目も大いに盛り上がったと思います。

三つ目は、「ソーラン節」です。子ども達の練習の様子は何度か見る機会がありましたが、本番は、これまでとは違った迫力を感じました。力強い動き、大きなかけ声、きりっと引き締まった顔、あまりの感動で鳥肌が立ってしまいました。「この子ども達は、どんな思いで踊っているのか」と考えたとき、しぜんと目頭が熱くなってきました。

全ての種目・係・応援に、全心全力で挑んだ子ども達は、雨の中でもまぶしく輝いていました。閉会式後の子ども達の笑顔を見たとき、「最後の運動会は、最高の運動会になったなあ。」と思いました。また、「最後の運動会は雨だったけど、全心全力で頑張ったなあ。」と、いつまでもみんなの記憶に残る運動会になるのかもしれない。

今朝は、運動会の疲れも見せず、みんな元気に登校してきました。子ども達は、運動会で身に付けた力を生かして、すでに次の目標に向かって頑張っていこうとしています。特別の運動会を通して、一段と逞しく成長した子ども達の、これからの活躍が益々楽しみになっています。

改めて、雨の中、早朝よりご来場いただき、たくさんのご声援をいただいたことに心より感謝申し上げます。

閉校まで200日を切っ
てしまいました。これから
も、「**崎小最後の1年**」をより
充実したものになるよう精
一杯頑張っていきます。今後
とも、皆様のご理解とご協力を
よろしくお願い致します。

